

村民の記憶

—東海村、そのとき、あなたは—

episode2

人口の急増 —新たな幼稚園、保育所、学校の誕生—

東海村の誕生後、日本原子力研究所をはじめとした各事業所や日立製作所などの近隣企業で働く人々が東海村に多く住み始め、団地が整備されていきました。そして、人口が急増した東海村では子どもの数も急増し、新たな幼稚園、保育所、学校が整備されました。当時の人々の記憶をのぞいてみましょう。

石神幼稚園・村松幼稚園の前身「東海なかよし幼稚園」が誕生

東海なかよし幼稚園は、東海村に原子力研究所が創設され、都会から大勢の方々が移住して来られ、教育の関心が高まって、昭和34年4月、日本原子力研究所荒谷台住宅の公共棟で開園されたと同っております。設置者は日本原子力研究所の職員名になっておりました。私が幼稚園に勤め始めましたのは、それから3年後の昭和37年6月でした。

石神地区の子ども達には荒谷台の幼稚園があまりにも遠く(中略)石神にも幼稚園が欲しいと保護者の切なる願いから誕生しました。最初は石神小学校の一室を借りていましたが、ようやく旧石神村役場の跡地を利用した公民館を保育室にすることに決まり、遊具も次第に備えられました。東海なかよし幼稚園石神分室たけ組というのが当時の名称です。



▲まだ荒谷台住宅の公共棟の中にあった東海なかよし幼稚園の第1回運動会（昭和30年代）

昭和39年頃になりますと、園児数も増え、荒谷台の公共棟では手狭になり、長堀の公共棟を長堀分室として使わせていただき、四歳児2クラスを保育しました。(中略)そして1年後の昭和40年4月、現在の村松下の内に大きな新園舎が完成しまして、荒谷台と長堀分室がここに移りました。(中略)昭和47年11月、東海村に幼稚園が移管されまして、東海なかよし幼稚園が現在の村立村松幼稚園に、石神分室が村立石神幼稚園となって若かった先生方がそれぞれにご活躍されております。
(元村松幼稚園主任教諭「溯源東海第4号」(1990)より一部引用・補足)



新たな団地の誕生

昭和40年から50年代にかけて、村内には緑ヶ丘団地や南台住宅などの新たな団地が造成され、多くの人々が住み始めました。



▲造成中の緑ヶ丘団地（昭和46年）

緑ヶ丘団地の思い出

昭和49年の10月頃に緑ヶ丘団地へ来ました。最初は須和間団地と言っていました。その当時の東海村は、発展途上という印象を受けました。団地は、7割くらいは県外から来た方々で、秋田県や岩手県、九州地方や北海道の方々もいました。

住民は30代が中心で、皆同世代だったので活気がありました。夏はやぐらを組んで盆踊り、正月は新年会やパンポン大会などをやった楽しい思い出があります。
(男性 緑ヶ丘地区)



昭和40年～50年代初めの東海村の主な出来事

昭和40年	東海中学校の新校舎が完成
昭和41年	東海村役場の新庁舎が完成
昭和44年	桃山保育所が開所
昭和46年	須和間小学校を中丸小学校に改称 緑ヶ丘団地の造成開始
昭和47年	東海なかよし幼稚園を村立化 村松幼稚園・石神幼稚園が発足
昭和48年	百塚保育所、舟石川幼稚園が開園
昭和49年	第29回国民体育大会「水と緑のまごころ国体」 (東海村はホッケー会場)
昭和50年	須和間幼稚園が開園
昭和51年	南台団地の造成開始 青年の家(現・中央公民館)が開所
昭和52年	県立東海高等学校が開校 東海村民会館(現・東海文化センター)が開館
昭和53年	東海南中学校が開校

中丸小学校の誕生

新しい団地が造成され、児童数が増加した須和間小学校は、敷地が狭かったため、校舎を新設する必要が高まりました。そこで、現在の地に小学校を新設し、東海村大字村松字藤ヶ作と字中丸にまたがるこの地の地名に由来し、「中丸小学校」という名前が付けました。



▲開設当時の中丸小学校（昭和46年）

開設当時の中丸小学校の思い出

開設当時、雨が降ると校庭は田んぼと化した。遊具はブランコ1つだけ。野ウサギ、リス、コジュケイなどを校庭でよく見かけた。須和間小と白方小から来た子は仲良しになった。松の緑に囲まれた静かな校舎、周囲の林に点在する四季折々を彩る花、そして小鳥の声。とても美しかった。でも通学路はまだ完成せず、街灯は一つもなく寂しかった。
(「卒業生某君の回想」中丸小学校資料より引用)



▲①東海南中学校（昭和55年頃）

新たな中学校の誕生 — 村立東海南中学校 —

東海中学校を分けて東海南中学校を作ると決まったとき、東海南中学校は3階建ての計画でした。しかし、当時、ある先生から、1階に職員室があつては5分間の休みの間に1階から3階まで行って帰ってくることができないと言われ、2階に職員室を作ることとなりました。
(元役場職員 昭和9年生まれ)



▲②東海高校（昭和55年頃）

(①・②とも東海村村勢要覧'80より引用)

新しい高校の誕生 — 県立東海高等学校 —

昭和51年11月初め頃、東海村教委※から講演を依頼されたその当日の事である。話をしている最中、ドカーン、ドカーンと大変うるさい大きな音がひびいてきた。終わってから「あの音は何ですか」と尋ねたところ「来春、東海高校が開校するのでその杭打ちです」という。私は「今ごろ基礎の杭打ちでは開校時の先生も大変でしょうね」と言った。(中略)それから数か月後、私はその初代校長となって赴任したのである。

(初代校長 藤田稔「東海 — 10年のあゆみ —」(1987)より一部引用)

※東海村教育委員会の略



【村の記憶 大募集】

現在、「広報とうかい」では、桃山保育所、第1回東海まつり、第1回文化祭の記憶や写真を募集していますので、ぜひ情報をお寄せください。情報は、電話またはメールで、下記の担当へご提供ください。

【問い合わせ】生涯学習課博物館・文化財担当(歴史と未来の交流館内) ☎287-0851 ✉ syougai gakusyu@vill.tokai.ibaraki.jp